

H27-B-2 深度60.26~60.69m 条線方向 (No.67) を変更

- 条線観察位置が最新活動面であることを残試料を用いて確認した。

コア写真



凡例
 ← → 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載
 ↘ 最新活動面

研磨片写真(横から)



凡例
 ◀▶ 試料切断方向

条線観察位置



凡例
 ▲ 条線観察位置

研磨片作製位置



青枠部拡大

0 5 cm

凡例
 ↘ 最新活動面

試料切断面



凡例
 ↘ 最新活動面

条線観察位置拡大



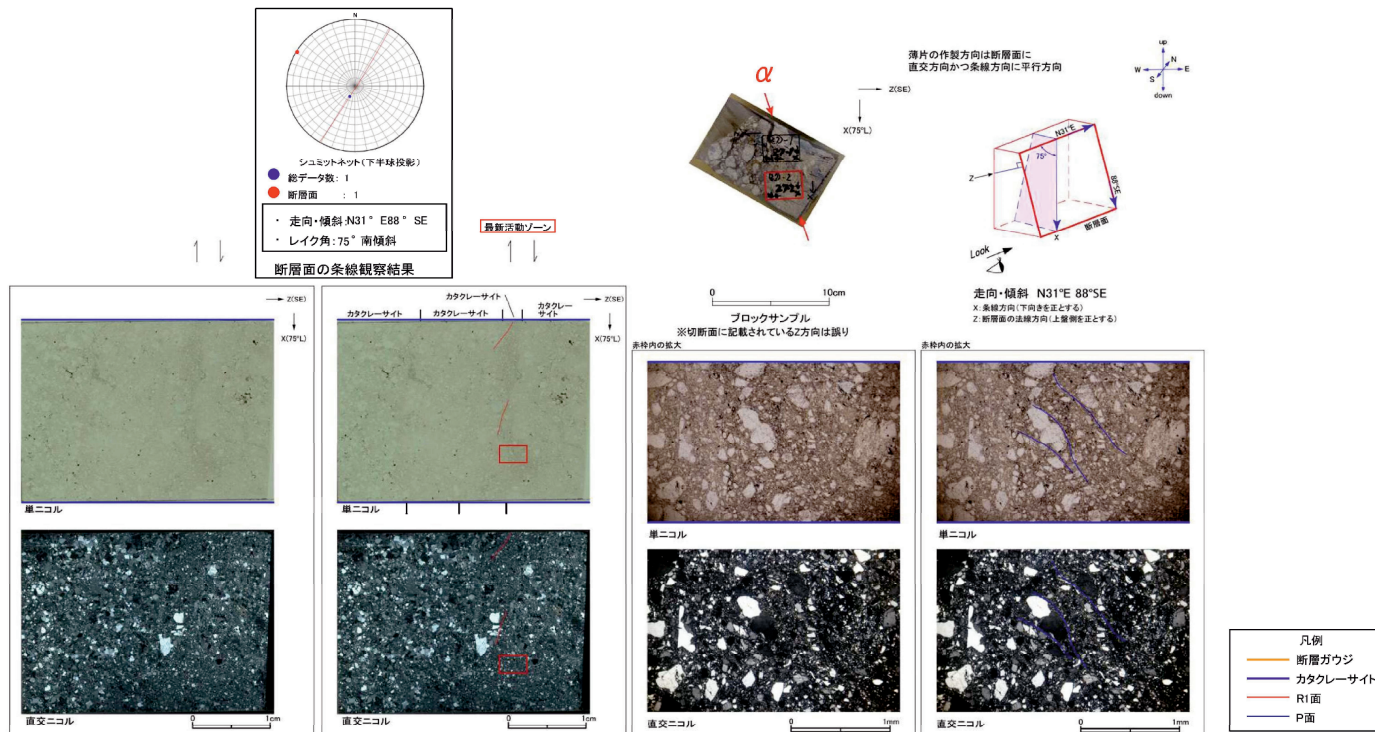
黄枠部拡大

H27-B-2 深度60.26~60.69m 変位センス (No.68) を変更

• 薄片試料の観察自体は適切に実施されていた※が、走向・傾斜 (N18E77W→N31E88SE)、条線方向 (60R→75L) が変更になることにより、傾斜方向が西傾斜から東傾斜となり、条線方向が高角度に変更となるため、変位センスは「正断層成分が卓越する。」に変更となる。

※薄片試料の作製は適切に実施されており、条線観察時の最新活動面の見直し (60.58m→60.59m) が反映されていたと推定される。

- H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
- 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
 - (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 - (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
 - (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

- ・最新活動面の走向・傾斜をN20E89Eに変更 (No.69)

【理由】資料作成時に観察事実と異なる内容が誤って記載されていたもの

- ・条線方向を15Lに変更 (No.70)

【理由】最新活動面で条線を再観察した結果に変更

- ・再作製した薄片試料の観察結果に変更 (No.71-1)

【理由】既存の薄片試料が最新活動面ではない箇所での試料であったもの

- ・変位センスを右ずれセンスに変更 (No.71-2)

【理由】再作製した薄片試料の観察結果 (No.71-1)、及び条線方向の変更 (No.70) に伴い変更

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

- a 走向・傾斜を「N20E89E」に変更 (No.69)
- b 条線方向を「15L」に変更 (No.70)
- c 変位センスの鉛直・水平を「-・右」に変更 (No.71-2)
- d 走向・傾斜：N20°E 89°E、レイク角：15°南傾斜に基づく断層面の条線観察結果に変更 (No.69、70)
- e 走向・傾斜：N20°E 89°E、レイク角：15°南傾斜に基づく模式図に変更 (No.69、70)
- f 再作製した薄片試料写真及びブロックサンプル写真に変更 (No.71-1)
- g 変位センスを「右ずれ成分が卓越する」に変更 (No.71-2)

H27-B-2 深度85.58～85.76m 最新活動面の走向・傾斜（No.69）および条線方向（No.70）を変更、それに伴い変位センス（No.71-2）を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-184頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

15.非モデル化破砕帯

性状一覧表(12/19)

No.69	No.70	No.71-2	No.69		No.70		No.71-2	
			走向	傾斜	走向	傾斜	走向	傾斜
N15E82W	60L	正右	15°E	82°W	60°	L	正	右
			a	b	c			

凡例	
最新活動面	破砕帯
断層ガワジ	断層角縁
粘土の存在物が認められる箇所	1: 調査
	2: 訂正

【破砕帯】
粘土状破砕帯、砂状破砕帯、角礫状破砕帯、
固結した粘土状破砕帯、固結した砂状破砕帯、固結した角礫状破砕帯
の合計の幅とし、破砕帯の走向傾斜から真の幅に換算した。

【半壊さ】
半壊さ：最新活動面が連続的なもの
半壊さ：最新活動面が不連続的なもの

参考2-184

No.69	No.70	No.71-2	No.69		No.70		No.71-2	
			走向	傾斜	走向	傾斜	走向	傾斜
N20E89E	15L	- 右	20°E	89°E	15°	L	-	右
			a	b	c			

※1 断層帯区分の総合評価に基づき記載し、内順「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
※2 割れボーンクの場合は、計測値を修正した値を記載
※3 産出しない部分については「-」を記載(固成「-」は薄片観察を行っていない箇所)
-(上記以外)：データを取得していない箇所

凡例	
最新活動面	破砕帯
断層ガワジ	断層角縁
カラーバーが付いていない区間はカタレーサイトを示す	

第7.4.4.114図(2) 破砕帯性状一覧 (027-B-2)

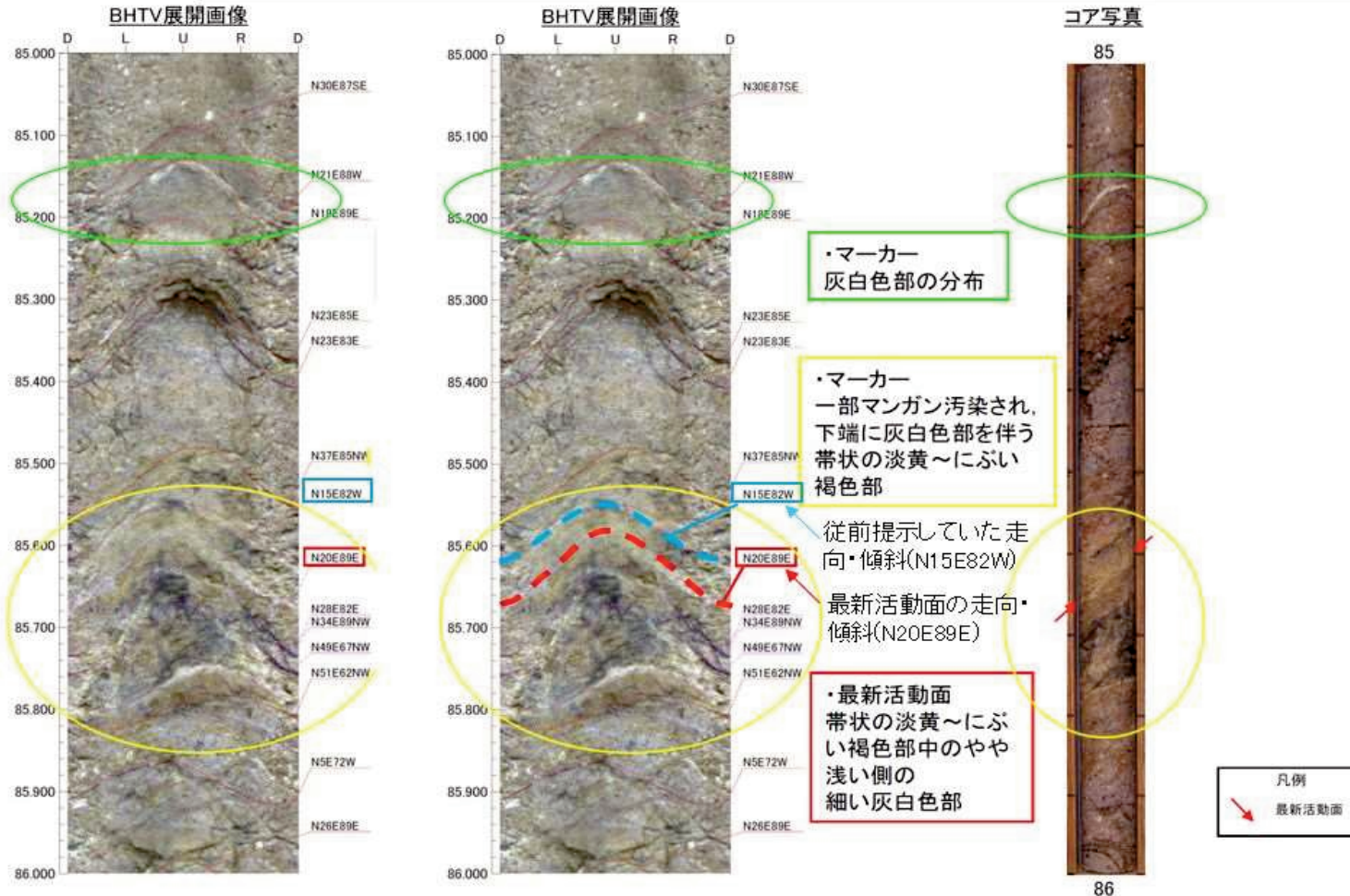
6-7-1393

H27-B-2 深度85.58~85.76m 最新活動面の走向・傾斜 (No.69) を変更

- 従前提示していたデータでは、性状一覧表にN15E82Wと記載していたが、BHTV展開画像からの走向・傾斜を読み誤っていたことから以下のとおり走向・傾斜をN15E82W からN20E89Eに変更した。

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H27-B-2 深度85.58~85.76m)

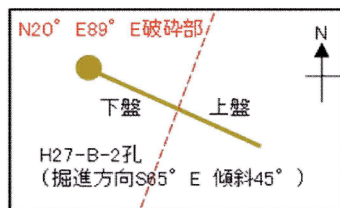
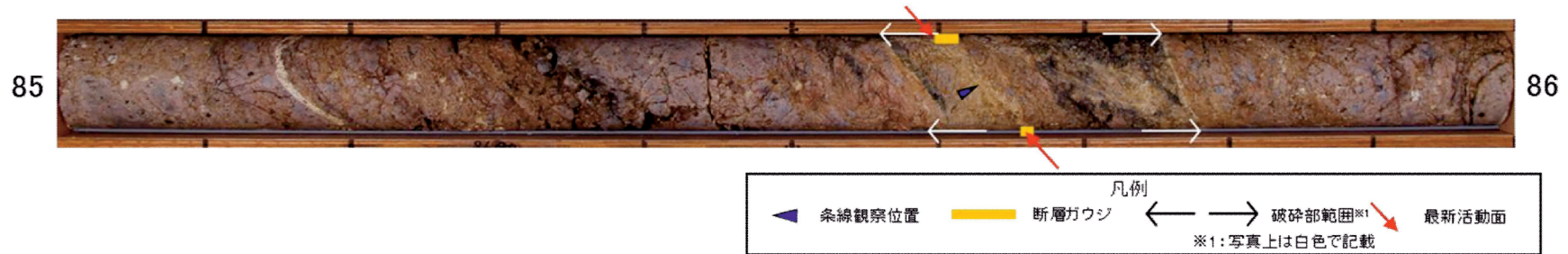
・ H27-B-2 深度85.58~85.76mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN20° E89° Eである。



H27-B-2 深度85.58~85.76m 最新活動面の条線方向 (No.70) を変更

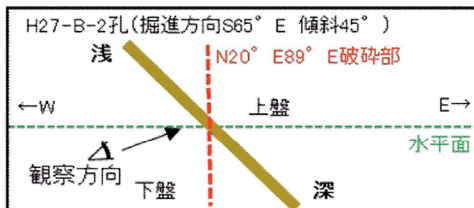
- H27-B-2孔 深度85.63mの断層面の走向・傾斜はN20E89Eであり、条線観察は下盤側から実施している。

コア写真



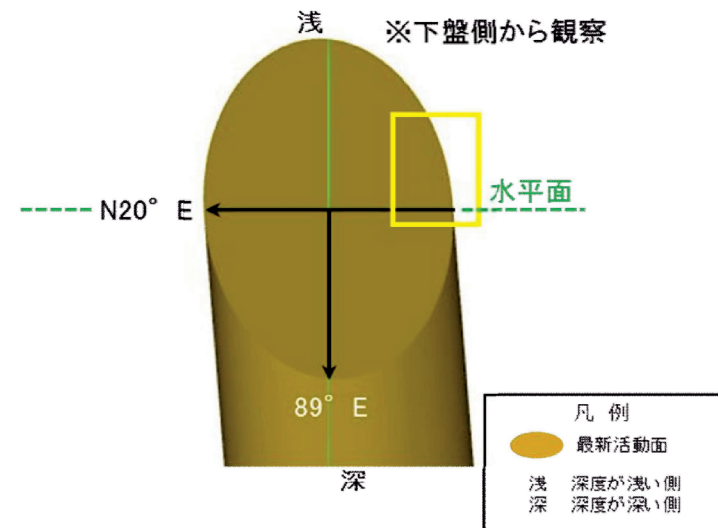
- ボーリングは掘進方向S65° E、傾斜45° で掘削している。
- 破碎部の走向・傾斜はN20° E89° Eであり、ボーリングと破碎部の平面的な位置関係は左図のようになる。
- 破碎部は東傾斜であることから、西側が下盤、東側が上盤となる。

図1 H27-B-2孔位置平面図(模式図)



- ボーリング(掘進方向S65° E、傾斜45°)と破碎部(走向・傾斜N20° E89° E)をボーリング孔沿いの断面図で示すと左図のようになる。
- ボーリング孔の浅い側が下盤、深い側が上盤となる。

図2 H27-B-2孔を通る断面図(模式図)



※図2で示した観察方向から、最新活動面に正対して描いた3次元的な図

図3 最新活動面と走向・傾斜の関係図

H27-B-2 深度85.58~85.76m 最新活動面の条線方向 (No.70) を変更

- H27-B-2孔 深度85.63mの断層面の走向・傾斜はN20E89Eであり、15Lの条線が認められる。

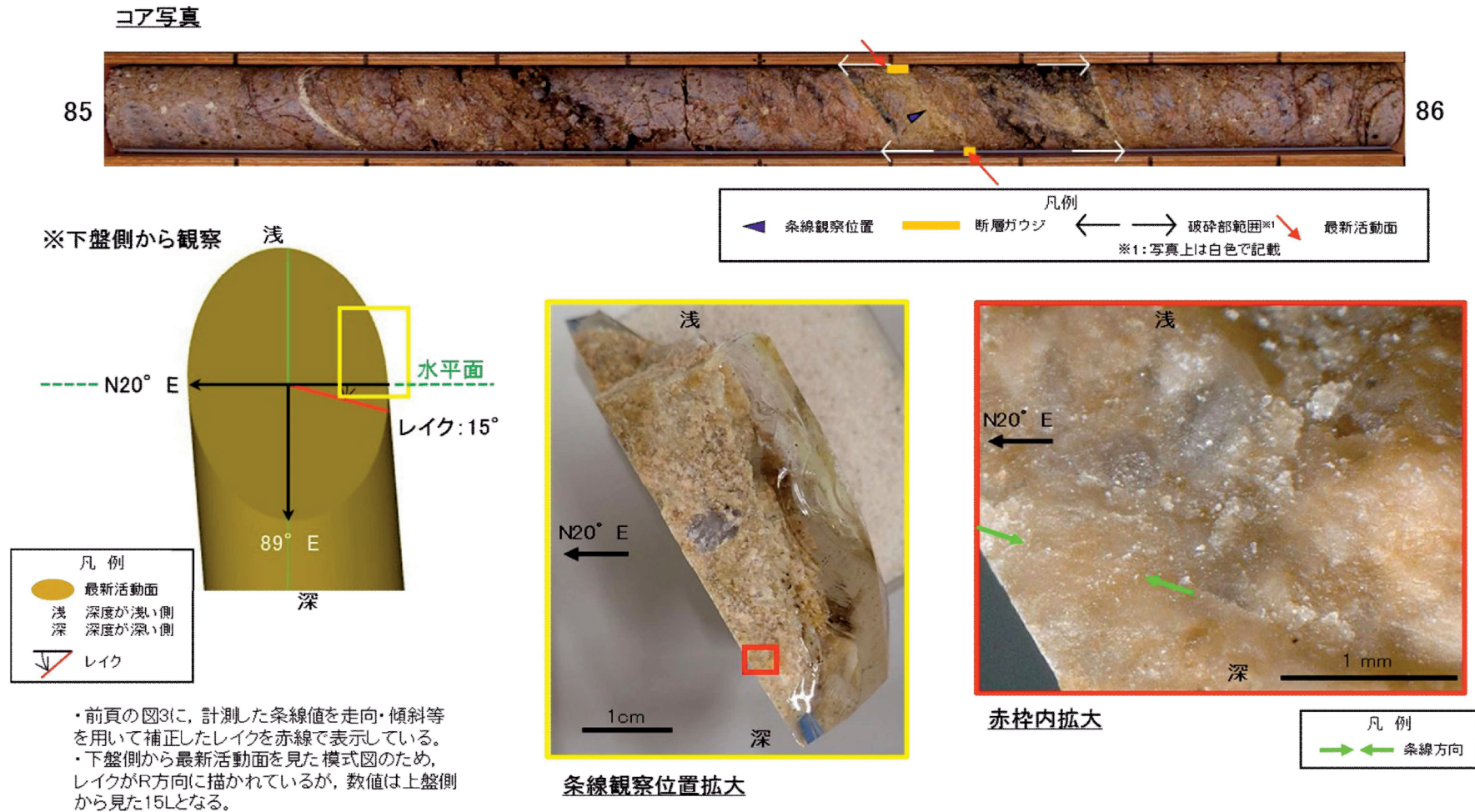


図4 最新活動面と走向・傾斜、条線の関係図

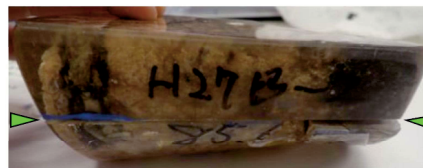
H27-B-2 深度85.58~85.76m 最新活動面の条線方向 (No.70) を変更

- 条線観察位置が最新活動面であることを残試料を用いて確認した。

コア写真



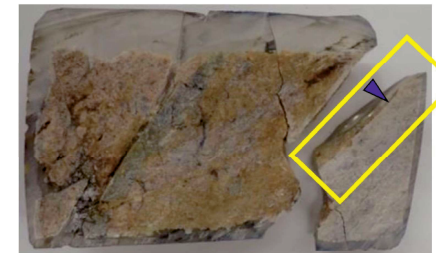
研磨片写真(横から)



0 5 cm

凡例
 ▲ 試料切断方向

条線観察位置



0 5 cm

凡例
 ▲ 条線観察位置

研磨片作製位置

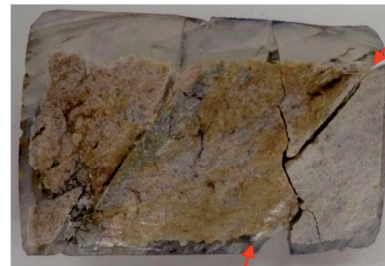


青枠部拡大

0 5 cm

凡例
 ▲ 最新活動面

試料切断面



0 5 cm

凡例
 ▲ 最新活動面

条線観察位置拡大



黄枠部拡大

H27-B-2 深度85.58~85.76m 再作製した薄片試料の観察結果 (No.71-1) に変更

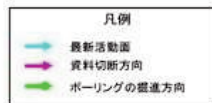
- 既存の薄片試料の作製位置を確認したところ最新活動面でない箇所で作製していたため、薄片試料を作製した観察結果に変更した。
- 再作製した薄片試料の作製箇所については、試料切断方向が正しい (最新活動面に直交で、かつ、条線方向に平行) ことを確認している。
- 右の図はボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面の正しい位置関係を図にしたものである。正しい位置関係とは、「試料切断面は最新活動面に直交で、かつ、条線方向に平行」の条件を満たすものである。試料で再現した3つの位置関係が図と相違ないことから正しく切断されていると判断した。(条線は最新活動面上で確認されているため、本ページでは表現されていない。)

試料切断方向確認資料 (H27-B-2孔 深度85.63m)

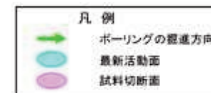
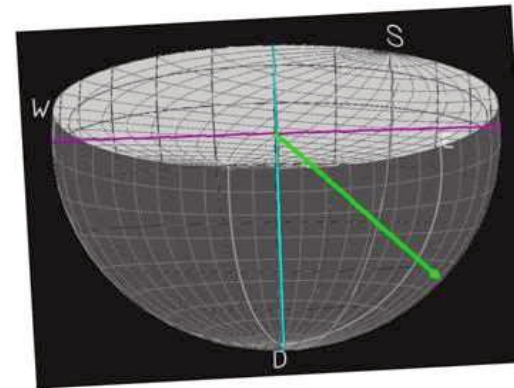
研磨片写真



ボーリング掘進方向および最新活動面位置、試料切断方向については、コア写真を利用してその位置が適切であることを確認した。



ボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面の関係を3次元的に示した図

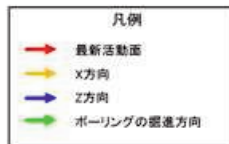
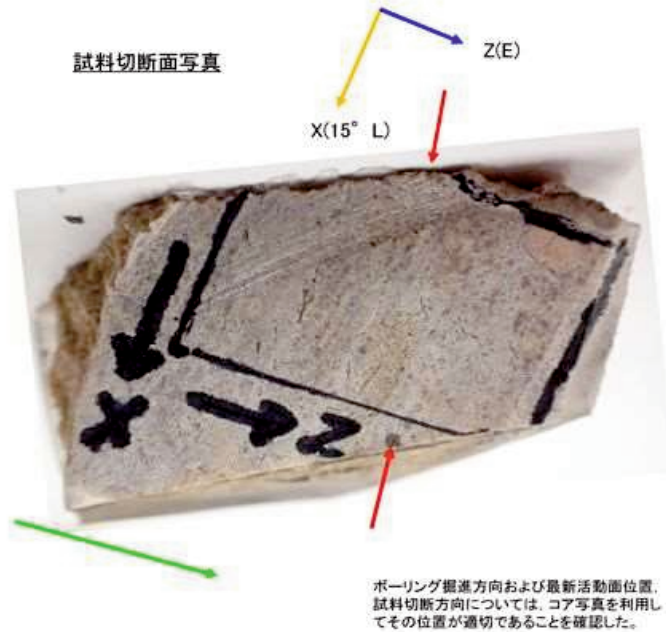


H27-B-2 深度85.58~85.76m 再作製した薄片試料の観察結果 (No.71-1) に変更

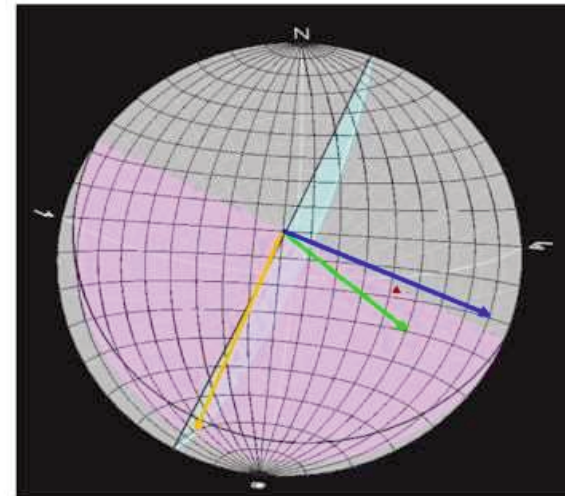
- 再作製した薄片試料の作製箇所について、試料の切断方向を確認し、下記の試料切断面写真に示したZ方向、X方向が正しいことを確認した。
- 右の図はボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面、X方向、Z方向の正しい位置関係を図にしたものである。正しい位置関係とは、「試料切断面は最新活動面に直交で、かつ、条線方向に平行」の条件を満たすものである。試料で再現した5つの位置関係が図と相違ないことから正しく切断されていると判断した。

試料切断面方向確認資料 (H27-B-2孔 深度85.63m)

・薄片作製位置は、肉眼観察により認定した最新活動面に沿って最も細粒化した部分を含み、試料の人為的な乱れのない箇所であることを確認した。



ボーリングの掘進方向、最新活動面、試料切断面の関係を3次元的に示した図



X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上登側を正とする)